

「男性不妊」県内啓発進む

病気や生活習慣起因、受診訴え

男性に原因のある不妊症について、県内の自治体や医療機関が啓発や診療体制を強化し始めた。卵子の老化と不妊の関係が知られるようになった半面、不妊の半数は男性側にも原因があるとされることから、男性の受診を促すことが狙いだ。

(塩沢恵子)

2015年度、男性不妊治療の手術に助成を始めた静岡市の場合、初年度の申請は3件だったが、16年度は11件に伸びた。担当者は「医療機関にパ



子異常や病気などで生殖機能に問題が生じる場合のほか、生活習慣との関わりも指摘されている。世界保健機関(WHO)の調査によると、不妊の原因が女性だけにあるケースは41%、男性だけは24%、男女両方が24%。夫婦

全市町で助成対象 医療機関も体制強化



電子カルテ入力の研修を受ける堀川晃さん(右)＝4月下旬、静岡市駿河区の俵I.V.Fクリニック

特集面 45

専門「俵I.V.Fクリニック」では今年13日から、医師の事務作業を補助する「診療クラーク」に男性を置く。

男性不妊外来の担当 俵史子院長は「不妊は男性にとってもデリケートな問題。リラックサして診察を受けていただくようにしたい」と話す。医療事務の専門学校で、同級生中ただ1人の男子生徒だったという堀川晃さん(20)は「診察室でのやりとりをスタッフの的確に伝えるのが仕事」と気を引き締め、研修に励んでいる。

医師は男性だが、電子カルテの入力などを行う診療クラークは、これまで女性しかいなかった。男性患者から「女性がいると話しづらい」という声が寄せられたのを受け、胚培養士のアシスタントを務める堀川晃さん(20)が診療クラークを兼務することになった。